

特別解説

日本企業による会計監査人交代の理由 (臨時報告書における開示例) その2

はじめに

本稿では、前回に引き続き、会計監査人の交代を行った会社が臨時報告書で行った開示を、会計監査人交代の理由（異動の決定または異動に至った理由及び経緯）を中心紹介することとしたい。なお、本稿での調査分析の対象とした臨時報告書は、2024年10月1日から2025年9月30日までの間に各財務局に提出され、EDINET上で開示された201件である。

臨時報告書における開示例 (類型別の分類)

本稿で取り上げる臨時報告書における会計監査人交代に係る開示例を類型別に分類すると、次のとおりである。

- (1) 会計上の不祥事等や会計監査人との見解の相違等に起因する会計監査人の交代
- (2) 監査法人が日本公認会計士協会による上場会社監査事務所としての登録を拒否されたことに起因する会計監査人の交代
- (3) その他の特徴的な事由による会計監査人の交代

具体的な開示例

- (1) 会計上の不祥事等や会計監査人との見解の相違等に起因する会計監査人の交代
- ① (株) ラックランド

(株) ラックランドは、店舗の企画・設計・施工を主な事業とする企業であり、東証プライム市場に株式を上場している。ラックランドが臨時報告書において行った、会計監査人の異動に関する開示は下記のとおりであった。

前任の会計監査人：PwC Japan有限責任監査法人（旧PwC京都監査法人）

後任の会計監査人：監査法人アリア

監査継続年数：3年

臨時報告書提出日：2025年3月26日

(異動の決定又は異動に至った理由及び経緯)

当社は、2024年4月16日付で設置を決定したガバナンス委員会による答申内容及び同年同月12日に受領した特別調査委員会の調査報告書を踏まえ、再発防止策及び新マネジメント体制について、当社取締役会にて2024年6月12日付で決議したうえで、「再発防止策策定及び新マネジメント体制に関するお知らせ」を公表しました。当社が新マネジメント体制のもとで再発防止策をこれから講じていくにあたり、PwC Japan有限責任監査法人は、新マネジメント体制との信頼関係を構築し、再発防止策の有効性を評価することに相当な時間を要すると判断していること、また、一連の過年度訂正のほか、当社が2024年6月14日付で公表しました「財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ」のとお